

平成31年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立（武雄）中学校

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学			英語
	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時	3 年時
H31入学 現1年	70.4 (0.98)			64.3 (0.96)			
H30入学 現2年	68.5 (0.99)	57.6 (0.93)		65.2 (0.97)	58.5 (1.00)		
H29入学 現3年	67.5 (0.99)	55.7 (0.94)	70 (0.99)	62.4 (0.91)	50.0 (0.93)	54 (0.95)	51 (1.00)
H31 正答率の全国比			(0.96)			(0.90)	(0.91)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

◇3年生の全国調査（国語）において、「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」ができています。

◇3年生の全国調査（数学）において、「数の集合と四則計算」や「簡単な連立二元方程式を解く」など、「数学的な技能」はできています。

◇3年生の全国調査（英語）において、「話すこと」の領域は全国と比べてかなり高い。

◇2年生の県調査（国語）において、「話す・聞く」活動において、到達達成が「十分達成」を示しており、向上が見られる。

◆3年生の全国調査、1・2年生の県調査（国語）において、「読む能力」に課題が見られる。

◆3年生の全国調査、1・2年生の県調査（数学）において、「数学的な見方や考え方」に課題が見られる。

◆3年生の全国調査（英語）において、「読むこと」「書くこと」の領域に課題が見られる。

◆3年生の全国調査、1・2年生の県調査において、記述式の問題に課題が見られる。

○3年生の全国調査、1・2年生の県調査の意識調査において、「話し合う活動」を授業でよく行っていると感じている生徒が多い。

●1・2年生の県調査の意識調査において、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」「友達の前で自分の考えや意見を述べることは（あまり）得意ではない」と感じている生徒が県の平均よりも多い。

●1・2年生の県調査の意識調査において、授業の復習やテストのやり直しをしている生徒の割合は高くない。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・個人，ペア，班，学級など様々な形態で「学び合う」活動に授業の中で取り組ませる。
- ・自分の考えについて根拠を明確にして表現させるために、「自分の考えを明確に表現しているか」「自分の考えにふさわしい根拠を取り上げているか」等を意識しながら、相手意識をもって話したり書いたりする場を授業の中に設定する。
- ・「単元テスト」「定期テスト」「実力テスト」等において、評価だけでなく指導に生かす観点からも授業で必ず振り返り（やり直し）を行い、フィードバックを行う。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・週末課題では、「目的や意図を理解し、自分のことばで考え、まとめる」活用力を高める課題を工夫する。
- ・定期考査前には、テスト問題とのつながりが明確なワークシート（＝テスト・プレビュー）を家庭学習の材料とする。
- ・学習記録等を活用して、日常の学習に1時間以上取り組む生徒が80%以上になることを目標に指導に取り組む。

1 生徒の実態

(2) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学			英語
	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時	3 年時
H31 入学 現 1 年	75.7 (1.06)			72.8 (1.08)			
H30 入学 現 2 年	66.6 (0.96)	63.6 (1.03)		67.4 (1.00)	65.4 (1.12)		
H29 入学 現 3 年	68.9 (1.01)	64.3 (1.09)	80.0 (1.13)	70.2 (1.02)	64.8 (1.20)	64.0 (1.12)	54.0 (1.06)
H31 正答率の全国比			(1.10)			(1.07)	(0.96)

◎ 1・2 年時は佐賀県学習状況調査、3 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「H31 正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

① 学力・学習状況調査（1 年）

1 年生は、国語、数学ともに県平均を上回っています。

国語 本校の平均正答率 75.7%で、県平均を 4.0 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、「話す・聞く」(1.07)、「書く」(1.09)、「読む」(1.03)、「知識・理解・技能」(1.05) の 4 観点ともに県平均を上回っています。しかし、到達基準と比較して、十分達成なのは「話す・聞く」(1.02)の 1 観点だけでした。
- ・ 内容・領域別では、「話す・聞く」(1.07)、「書く」(1.09)、「読む」(1.03)、「漢字の読み」(1.00)、「漢字の書き」(1.08)、「語句に関する知識」(1.08) の 6 領域すべてで県平均と同じか上回っています。しかし、到達基準と比較して十分達成なのは「話す・聞く」(1.02)、「漢字の読み」(1.07) の 2 領域だけでした。
- ・ 「活用」に関する問題の正答率は、県平均(39.4)に対して本校平均(48.9)と、9.5 ポイント上回っています。

数学 本校の平均正答率 72.8%で、県平均を 5.6 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、「考え方」(1.28)、「技能」(1.08)、「知識・理解」(1.02) の 3 観点ともに県平均を上回っています。しかし、到達基準と比較すると 3 観点ともに十分達成には到達していません。
- ・ 内容・領域別では、「数と計算」(1.13)、「量と測定」(1.08)、「図形」(1.08)、「数量関係」(1.09) の 4 領域すべてで県平均を上回っています。しかし、到達基準と比較すると 4 領域ともに十分達成には到達していません。
- ・ 「活用」に関する問題の正答率は、県平均(43.8)に対して本校平均(55.0)と、11.2 ポイント上回っています。

② 学力・学習状況調査（２年）

２年生は、国語、数学ともに県平均を上回っています。

国語 本校の平均正答率 63.6%で、県平均を 1.8 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、「話す・聞く」(1.06),「書く」(1.12),「読む」(1.02),「知識・理解・技能」(1.00)の４観点すべてで県平均と同じか上回っています。しかし、到達基準と比較して、十分達成なのは「話す・聞く」(1.15)の１観点だけでした。
- ・ 内容・領域別では、「話す・聞く」(1.06),「書く」(1.12),「読む」(1.02),「漢字の書き」(1.03),「語句に関する知識」(1.02)の５領域で県平均を上回っています。「漢字の読み」(0.94)だけは県平均を下回っています。しかし、到達基準と比較して十分達成なのは「話す・聞く」(1.15)の１領域だけでした。
- ・ 「活用」に関する問題の正答率は、県平均(46.8)に対して本校平均(47.9)と、1.1 ポイント上回っています。

数学 本校の平均正答率 65.4%で、県平均を 7.0 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、「考え方」(1.03),「技能」(1.14),「知識・理解」(1.12)の３観点ともに県平均を上回っています。しかし、到達基準と比較して、十分達成なのは「技能」(1.02)の１観点だけでした。
- ・ 内容・領域別では、「数と式」(1.10),「図形」(1.09),「関数」(1.08),「資料の活用」(1.32)の４領域すべてで県平均を上回っています。しかし、到達基準と比較して十分達成なのは「数と式」(1.02)の１領域だけでした。
- ・ 「活用」に関する問題の正答率は、県平均(34.5)に対して本校平均(35.0)と、0.5 ポイント上回っています。

③ 学力・学習状況調査（３年）

３年生は、国語、数学、英語ともに県平均を上回っています。

国語 本校の平均正答率 80.0%で、県平均を 9.0 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、「国語への関心・意欲・態度」(1.11),「話す・聞く能力」(1.14),「書く能力」(1.07),「読む能力」(1.19),「言語についての知識・理解・技能」(1.11)の５観点ともに県平均を上回っています。また、全国平均に対しても全観点で上回っています。
- ・ 内容・領域別では、「話すこと・聞くこと」(1.14),「書くこと」(1.07),「読むこと」(1.19),「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(1.11)の４領域すべてで県平均を上回っています。また、全国平均に対しても全領域で上回っています。
- ・ 問題形式別でも、「選択式」,「短答式」,「記述式」のいずれも県平均正答率を上回っています。

数学 本校の平均正答率 64.0%で、県平均を 7.0 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、「数学的な見方や考え方」(1.22),「数学的な技能」(1.04),「数量や図形などについての知識・理解」(1.10)の３観点ともに県平均を上回っています。しかし、「数学的な技能」については全国平均を下回りました。
- ・ 内容・領域別では、「数と式」(1.08),「図形」(1.16),「資料の活用」(1.27)の３領域で県平均を上回っていますが、「関数」では、県平均を下回りました。また、全国平均に対しても同じように３領域で上回りましたが、「関数」については下回りました。
- ・ 問題形式別でも、「選択式」,「短答式」,「記述式」のいずれも県平均正答率を上回っています。

英語 本校の平均正答率 54.0%で、県平均を 3.0 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、「外国語理解の能力」(1.05)、「言語や文化についての知識」(1.06) の 2 観点は県平均を上回っています。しかし、「外国語表現の能力」については県平均を下回りました。また、3 領域とも、全国平均は下回っています。
- ・ 内容・領域別では、「聞くこと」(1.11)、「読むこと」(1.12) の 2 領域で県平均を上回っていますが、「書くこと」では、県平均を下回りました。また、全国平均に対しても同じように 2 領域で上回りましたが、「書くこと」については下回りました。
- ・ 問題形式別では、「選択式」、「記述式」は県平均正答率を上回っていますが、「短答式」の正答率は県平均を下回っています。
- ・ 英語（話すこと）では、本校の平均正答率は 25.0%で、全国平均を 5.8 ポイント下回っています。

④ 生徒意識調査

学力と関連する項目について、以下のような結果が得られました。

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒は、本校 1 年生で 96.8%（県 93.0%）、2 年生で 87.5%（県 87.4%）、3 年生で 83.4%（県 82.7%）と各学年とも県平均を上回っています。学年がすすむにつれて楽しいと思う生徒が減ってきていますので、充実した生徒指導をすすめていきます。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒は、本校 1 年生は 100%（県 84.1%）、2 年生は 75.0%（県 72.4%）、3 年生は 62.5%（県 72.1%）と学年がすすむにつれて、割合が減っており、1 年生で 100%の回答があるのに対して、3 年生では県平均も下回っています。3 年間を見通した学習指導、進路指導にさらに力を入れていきます。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒は、本校 1 年生は 70.9%（県 69.7%）、2 年生は 50.2%（県 57.7%）、3 年生は 62.5%（県 50.2%）である。学年がすすむにつれて減少しているが、2 年生が県平均よりも 7.5 ポイント低くなっています。こちらも進路指導、学習指導をさらに充実させていきます。
- 「授業以外で、普段(月曜日から金曜日)1 日あたりどのくらい勉強しますか」に対して、「2 時間以上」と答えた生徒は、本校 1 年生は 42.0%（県 22.6%）、2 年生は 31.2%（県 24.6%）、3 年生は 54.2%（県 26.5%）であり、各学年とも県平均を上回っています。しかし、県平均は、学年がすすむにつれて増加していますので、2 年生もが、1 年生よりも少ない割合になっています。
- 「読書は好きですか」に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒は、本校 1 年生は 93.6%（県 75.2%）、2 年生は 75.1%（県 71.8%）、3 年生は 75.0%（県 68.4%）であり、各学年とも県平均を上回っています。読書に対しては、いい傾向がでています。

2 改善に向けた具体的な取組

(2) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 全国・県の学習状況調査の分析結果に係る校内研修を行い、全職員で結果を分析し、結果から本校の課題を洗い出し、共通理解のもと授業の改善を図ります。
- 次期学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研修を深め、講師を招聘して全教科で研究授業を行い、「わかる授業」をめざして授業力の向上に努めます。
- スマイル学習を推進した協働学習や言語活動をテーマにした西部型授業を行います。
- 効果的な ICT 利活用についてさらなる可能性を探ります。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の充実
家庭学習の時間を毎日調査し、月ごとに集計して掲示を行います。宿題提出率調査や頑張っている生徒の自主学習ノートを紹介・掲示するなどの取り組みも行います。
- e ライブラリの活用
タブレット端末の活用として、朝の時間に全校で取り組み、基礎学力の定着や授業時間の活性化を図ります。
- 放課後等補充学習（北中タイム）の充実
9月以降に補充学習を行うことで、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図ります。
- 表現力の向上
帰りの会で「授業の振り返り」や「1分間スピーチ」を行い、自分の言葉で発表する機会を増やし、表現力の向上をめざします。
- 中1 ギャップ解消
本校校区内の若木小と武内小の6年生に対して、「出前授業」を1～3月頃に行います。また、両小学校に中学3年生が出向いて読み聞かせを行い、スムーズな中学校への入学を目指します。
- 読書の推進
週4日、朝読書を継続して行うとともに、幅広いジャンルの本に親しめるように、本の紹介や読み聞かせを行います。

1 生徒の実態

(3) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学			英語
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	3年時
H31入学 現1年	72.0 (1.00)			67.8 (1.01)			
H30入学 現2年	65.6 (0.94)	63.3 (1.02)		62.2 (0.93)	54.4 (0.93)		
H29入学 現3年	70.8 (1.03)	64.8 (1.10)	74 (1.04)	72.4 (1.06)	55.1 (1.02)	64 (1.12)	53 (1.04)
H31 正答率の全国比			(1.02)			(1.07)	(0.95)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。 ◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・「読むこと」に課題が見られる。文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことができていない。
- ・文章の内容の読み取り、問題文で何が問われているか、どのように考えればよいかが理解できていない。
- ・語彙の質と量の差が大きい。

【数学】

- ・「資料の活用」について、最頻値を読み取ることや判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができていない。
- ・規則性について考える設問、文章を読み取って数量の関係について文字を用いた式で表す設問、数学の用語の意味の理解を問う設問に課題が見られる。
- ・「文字を扱うことへの抵抗」や「割合についての意味の理解」の壁をどう乗り越えさせるかが大きな課題である。

【英語】

- ・「読むこと」に課題が見られる。まとまりのある文章を読んで、必要な情報を読み取ることができていない。
- ・「書くこと」に関しては、文法的な内容は理解しているものの、肯定文を正確に書いたり、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文を書いたりすることができていない。
- ・日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができていない。

2 改善に向けた具体的な取組

(3) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【国語】

- ・テストの後に振り返る時間を確保し、問題となる文章や問題文のどこをどのように読むのかの指導を継続して行う。

- ・表現技法などの基礎的な知識をまとめたワークシートをファイリングするなどして、いつも参照することができるようにする。
- ・社会生活の出来事や事象について、関心をもつことができるような学習課題の設定を行う。
- ・語彙指導について、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句の意味や使い方に関する認識を深めることができるような教材を用いて、協働学習により主体的に考えさせる時間を設定する。

【数学】

- ・数学的な表現を用いて、解決方法を説明したり判断の理由を説明したりすることができるように、式から読み取ったことや事柄が成り立つ理由などを記述したり、他者に説明したりする活動を取り入れる。
- ・捉えた数量を線分図などに表し、必要な数量を書き入れてその関係について理解しやすくなるような指導の徹底を図る。
- ・課題を解決する時間や学習の実態など個に応じて記入することができるようなワークシートの工夫を行う。
- ・基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、これまで学習した内容を活用して解決することができるような課題を意図的・計画的に設定する。

【英語】

- ・短文から長文へと語数を増やしながら、英文を読む活動を継続的に行う。
- ・マッピング活動やパターン活動などを通して、段階を踏みながら書く活動の充実を図る。
- ・本文に書かれている内容に関する自分の意見や感想を、ペアやグループで意見交換することができるような場の設定を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・校内研究で進めている学習課題の設定の工夫や学習規律について、共通理解、共通実践を図る。
- ・聞く姿勢や聞き方などの聞くことの指導の徹底を図る。

1 生徒の実態

(4) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学			英語
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	3年時
H31入学 現1年	70.0 (0.98)			63.7 (0.95)			
H30入学 現2年	70.2 (1.01)	62.7 (1.01)		63.1 (0.94)	54.0 (0.92)		
H29入学 現3年	63.6 (0.93)	49.1 (0.83)	65 (0.92)	68.6 (1.00)	51.2 (0.95)	47 (0.82)	43 (0.84)
H31 正答率の全国比			(0.89)			(0.79)	(0.77)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・学習状況調査の結果については、ほぼ県平均程度か、県平均より低い傾向にある。数学においては、全学年、県の平均より低く、生徒の苦手意識も高い。
- ・3年生においては、各教科、度数分布が二極化している。
- ・国語では1・2年生における「漢字の読み書き」は、上回っており（県平均比）、「書く」ことに関しては全学年において県平均と同等であるが、「読む」ことに関しては全学年課題がある。
- ・数学では、1・2年生の「考え方」におけるポイントが他の観点より低く（県平均比）、3年生では「知識・理解」におけるポイントが低い。また、2・3年生は、「図形」の領域において、正答率が低かった。
- ・3年生の英語では、「知識・理解」におけるポイントが低く、「読む・書く」の領域において正答率が低かった。
- ・各教科の学習を「好き」「わかる」「将来役に立つ」という質問に対して好意的な回答をしており、特に2年生は「授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つ」と答えた生徒が全教科に渡って県の平均を上回っている。
 - 差はあるが、全体的に見て、学習の意義を理解し、前向きに学習に臨んでいる。文脈の中でねらいや目的を意識した表現や俯瞰的、多面的な見方、課題に根気強く取り組んで学習を深めたり自分の考えを再構成したりすることなどを苦手としている生徒が少なくない（意識調査より）。
- ・家庭学習において、2・3年生で1時間以上行っていると答えた生徒は、県平均を上回っている。1年生で、予習・復習・苦手な教科・テストの見直し等を行う割合が低い、2年生ではその割合が高くなっている（県平均比）。
 - 2年生では家庭学習において、自ら課題意識をもって学習に取り組んだり、自律的に学習したりすることが身についてきている。
- ・部活動への参加率や活動時間が多く、スマホ等の所持率が低く、地域行事への参加は県の平均を大きく上回っている。一方で読書を全くしない生徒の割合がやや高い（1年 30.8%、2年 27.6%、3年 38.6%）。
 - 仲間や地域との関わりがあり、のびのびと生活している様子がうかがわれる。

2 改善に向けた具体的な取組

(4) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・基礎的な知識・理解の定着を図る。そのために、基礎的な反復練習を日々の宿題として課し、授業で小テスト等を行う。小テストや宿題のチェックをこまめに行い、必要な生徒には、個別の支援をして対応する。
- ・基礎学力の定着と学力差の拡大に対処するため、英語・数学のチームティーチングでのきめ細かい指導による学力向上をめざす。
- ・学習環境、ICT の活用、課題の提示などをシンプルな形で視覚化し、共有化できるようユニバーサルデザイン的な視点をもって授業づくりを行う。
- ・めあて、まとめ、振り返りを確実に言い、1 時間 1 時間の学習のポイントを理解させるようにする。
- ・基礎的な知識や技能を用いて、発展的な問題や既習の知識を活用した課題に取り組ませるようにする。その際、小グループでの話し合い活動の場面を設定し、対話的な学びのある授業づくりをめざす。
- ・学習規律を守らせる。必要に応じてチームティーチングで授業にあたるようにする。
- ・スタディサブリを個に応じた補充・補完学習に活用する。
- ・家庭学習を定着させるために、宿題に継続して取り組ませるようにする。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・規律を守って、学校生活ができるようにするために、「立腰」を見直し、徹底させる。まずは、掃除の前後、帰りの会の際の立腰においては、時間も意識させるようにする。
- ・立腰教育、凡事徹底、学習規律の徹底等、これまでの取り組みを継続して、学習に取り組みやすい環境をつくる。さらに保護者との連携を図り、学習意欲の向上、家庭学習の定着につなげるようにする。
- ・生徒理解に努め、開発的生徒指導の実践を行い、生徒の出番や活躍できる場面を設定するようにする。
- ・朝読書の時間を確保し、読書に親しむ態度を養うようにする。
- ・コミュニティスクールの取り組みにより、地域の方を講師として招き、幅広い知識や教養を身につけさせ、人間形成に役立つキャリア教育の推進を図る。
- ・地域行事や部活動を通して社会性や目標に向かって努力する姿勢を身につけさせるようにする。
- ・学校・学年・学級だよりを通して学校の様子を発信し、学校と家庭の連携を図るようにする。

平成31年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立（北方）中学校

1 生徒の実態

(5) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学			英語
	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時	3 年時
H31入学 現 1 年	68.0 (0.95)			60.8 (0.90)			
H30入学 現 2 年	67.2 (0.97)	60.3 (0.98)		65.2 (0.97)	59.6 (1.02)		
H29入学 現 3 年	67.2 (0.98)	64.6 (1.09)	73.0 (1.03)	67.3 (0.98)	56.0 (1.04)	59.4 (1.06)	49.0 (0.96)
H31 正答率の全国比			(1.00)			(0.99)	(0.88)

◎ 1・2 年時は佐賀県学習状況調査、3 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「H 3 1 正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・全国学習状況調査（3 年生）においては、国語・数学ともに県平均を上回り、全国と比較してもほぼ同等である。国語においては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が、数学においては「数量や図形などについての知識・理解」が全国を上回っている。しかし、英語については全国、県を下回っており、特に「書くこと」に課題を抱えている生徒が多い。

・県学習状況調査(1、2 年生)では、2 年生数学に伸びが見られ、特に、十分達成のレベルにある生徒が県よりも高い結果が得られた。しかし、1 年生数学においては、要努力の生徒の割合が高い状況が見られ、特に「考え方」に課題があり、指導方法の改善が必要である。国語においては、いずれも県を下回る結果となったが、おおむね達成の割合が県よりも高い状況が見られた。今後は、「読む」「漢字の書き」領域に重点を置いて指導する必要がある。

・意識調査においては、朝食摂取率や夢や目標を持っている割合、地域行事参加意識など全国や県より高い結果が得られたが、家庭での学習習慣に関する質問が全国・県より低く、取り組みが必要である。

2 改善に向けた具体的な取組

(5) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・「授業を振り返りから始め、それを生徒が説明する授業」「話し合う目的が明確であり、話し合い活動が活性化している授業」を目指す北方中授業スタイルを継続し、さらに、9 月以降は「まとめ」と「振り返り」を書かせる場面を設け、実践に取り組む。

・「めあて」と「まとめ」の徹底、授業時の挨拶や話し方、聞き方などの学習規律を徹底する。

・スタディサプリの効果的な使い方を考えるとともに、I C T 機器の積極的な利活用を推進する。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・家庭での学習時間調査を継続し、習慣化に向けた「自主学習ノート」の実践及び内容の充実をすすめる。また、自主学習ノートの取り扱いについて、共通理解を図り、生徒のモチベーションを高める手立ての充実を図る。

・S N S の利用や健康に関する学習を行いながら、家庭での時間の使い方に関する指導を充実させる。